

## 私立弘前女学校生のボランティア活動の分析

～1900年の弘前市での岡山孤児院慈善音楽幻燈会時の活動を通じて～

松 本 郁 代  
玉 井 厚

### はじめに

私立弘前女学校（以下「弘前女学校」とする）とは現在の弘前学院聖愛中学高等学校および弘前学院大学の前身である。弘前女学校は1886（明治19）年に弘前教会内に函館の遺愛女学校の分校として創設し、昨年5月に132周年を迎えた。本稿は今から約119年前の1900（明治33）年10月3～5日、弘前女学校開設後14年目の年に弘前市で開催された岡山孤児院音楽幻燈隊による慈善音楽幻燈会の際、同校の女生徒は多方面にわたって活動している。同校の女生徒達のその時の活動は現代でいうボランティア活動に該当するのではないか。だとすればこの時の慈善音楽幻燈会は青森県の児童救済事業に重要な契機をもたらした（このことについては後述する）と同時に日本にボランティアという言葉が普及していない時代に青森県で女生徒による組織的かつ大規模なボランティア活動が行われていたことになるのではないか。しかし、そのような事実については本学発行の『弘前学院百年史』をもってしても触れられていない。このことは社会福祉の歴史的視点から見れば長い歴史のある本学として加える必要があると理解する。そこで本稿ではボランティアという観点から女生徒達の活動の具体的な内容を論じたい。

その主な内容については、①ボランティア活動の定義、②弘前市で初めて開催された慈善音楽幻燈会開催までの準備とその支援者の内容、弘前女学校生のボランティア活動、③慈善音楽幻燈会開催内容と弘前女学校生のボランティア活動、④寄付金募集の内容と慈善音楽幻燈会の啓蒙の効果を明らかにする。その資料の出典は、青森県弘前市の地元紙『北辰日報』および青森市の『東奥日報』と岡山孤児院発行の『岡山孤児院新報』の新聞記事である。

### 1 1900（明治33）年までの弘前女学校の沿革と岡山孤児院及び音楽幻燈隊の活動経過

今回の弘前市での慈善音楽幻燈会を通じての女生徒によるボランティア活動が可能となった前提条件にはそれまでの弘前女学校の沿革や、岡山孤児院の動向も触れておく必要がある。そこで、まずこの2つの概要から報告する。

#### （1）創設時から1900年までの弘前女学校の沿革

1886（明治19）年5月25日本多庸一（写真1）が弘前教会内に函館の遺愛女学校の分校を開設する<sup>1)</sup>。校名は来徳（ライト）女学校と称し、生徒数十名で山鹿元次郎が校務を担当した。9月9日、本多庸一仙台へ転任の任命を受ける。11月16日、山鹿が仙台へ赴任、教会勤士阿保栄次郎が校務担当者を引き継ぐ。1887年6月在校生中村のぶが受洗し弘前女学校生最初の入信者となる。校名を弘前遺愛女学校とする。函館の遺愛女学校よりM・S・ハンプトン（第二・四代校長）、A・ディカーソン（第三代校長）が交替で弘前に出張し校務を兼任する。長谷川誠三ほか有志、本多の意を受けて新校舎の設立準備を始める。1888年6月長谷川ほか同志7名が女学校設立趣意書を発表、募金活動を始める。校名は「私立弘前女学校」と改称され、同年11月元大工町に校舎建築着工する（写真2）。同月、第二代校長（外人では初代）M・S・ハンプトン弘前女学校に着任する。1889年5月28日鍋島幹知事より私立弘前女学校設立許可を受ける。6月25日、弘前女学校開校式。生徒、本科・小学科合わせて70余名であった。

1891年4月それまで遺愛女学校と兼任だったが初めて専任の校長として第五代校長ジョルジアナ・ポーカスが着任、王女会の紹介など新風をもたらす。1893年9月7日、学則改正を申請、予科（四年）、本科（二年）、選科（一年）手芸専修の定員100名とする。1897年6月工藤玖三が教頭として着任し、全生徒を三分して各組長を公選するなど校内整備を始める。同年11月13日第七代校長E・J・ヒューエット着任する。彼女は生徒が編物や手芸品等を毎年秋の農産品評会に出品するなどの活動を熱心に指導した。このように王女会活動は弘前女学校生活のキリスト教信仰にたつ奉仕活動の中心となった。1898年6月23日、生徒総数100名を記念し祝賀式を行う。同年7月8日、私立女子尋常小学校の看板をあわせ掲げる。1899年、長谷川誠三が弘前市坂本町に購入した校地の民家を寄宿舍にあてる。舎監は工藤教頭、収容人員10名であった。1900年には1月27日に校主の長谷川誠三が坂本町校舎新築計画を発表し、10月に坂本町に新校舎の建築を始めた。そして翌年2月4日に新校舎へ移転した。

このように弘前女学校側にとっては新校舎の建築という大きなうねりの中で岡山孤児院慈善音楽幻燈会は開催された。また、このような経過を確認すると弘前女学校では1891年にジョルジアナ・ポーカス校長が着任した頃から“奉仕”の土壌は醸成されていたと理解する。

ここで経過の中で関係した主な人物および王女会について簡単に紹介する。

まず本多庸一は1848（嘉永元）年弘前市在府町に生まれ、23歳の時藩命により横浜に学び当時禁令のキリスト教に入信し生涯を伝道に捧げた。また、自由民権運動を指導し、26歳で東奥義塾の塾頭となり、翌1875（明治8）年には弘前教会（現日本キリスト教団弘前教会）を設立した。政治活動としては1881年青森県会議員に当選、1884年には議長を務めた。1886年既述のとおり弘前教会内に函館の遺愛女学校の分校を開設した。1888年渡米し、帰国後青山学院長に就任した。創立当時の弘前女学校は、校長長谷川誠三が学校経営について青山学院長の本多の教示を仰いでいた。しかし、長谷川がメソジスト教会離脱の決意をした時、弘前女学校のことを憂慮し、1910年自ら同校の設立者となった。その頃彼は日本メソジスト教会の初代監督の重責を担い、国内外を東奔西走していた。1912年3月、その生涯を終えた<sup>2)</sup>。

#### 私立弘前女学校 創業者・初代校長

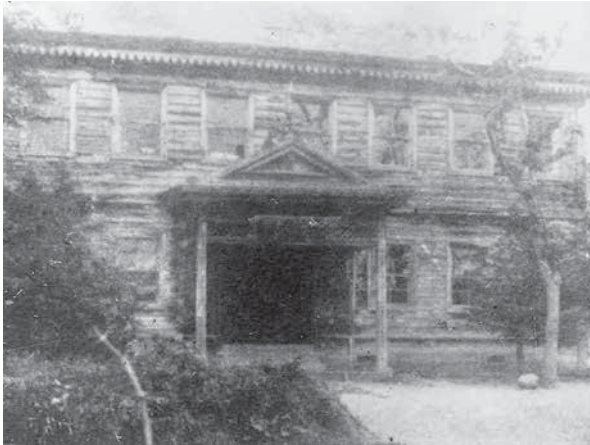
本 多 庸 一 <写真1>



（弘前学院外人宣教師館所蔵）

私立弘前女学校 元大工町校舎

<写真2>



(弘前学院外人宣教師館所蔵)

山鹿元次郎は1858（安政5）年江戸津軽藩邸にて弘前藩士の子に生まれ、幼い時帰弘し東奥義塾に学び、本多庸一とJ・イングの指導によりキリスト教に入信した。1886（明治19）年本多から懇請されて弘前女学校の校務担当者となった。その後、仙台、東京など各地の教会を牧し、1904年から弘前教会牧師となり1922年まで地元の伝道と教化に献身した。長く弘前女学校の理事や理事長として地方のキリスト教教育にも大きな足跡を残した<sup>3)</sup>。

中村のぶは1875（明治8）年弘前市土手町に生まれた。1892年弘前女学校第一回卒業生<sup>4)</sup>。中村はポーカス校長の教え子で、彼女が仲間と教師をして開いた中土手町子守学校についてポーカスは「集ってくる子守たちは背負っている赤ん坊をおろし、これをあやしながら読み書きや歌をおそわる」などの記事を伝えている<sup>5)</sup>。また、弘前女学校の同窓会（校友会）の第3代（1917年）および第6代（1920～1935年頃）会長を務めていた<sup>6)</sup>。さらに、弘前の医師伊東重の信頼があり、彼が1906年養生幼稚園を開設して以来30余年にわたってそこに勤め、幼児教育に専念した<sup>4)</sup>。

長谷川誠三は1857（安政4）年生まれの南津軽郡藤崎村の人で、我が国最初の石油会社創立に投資「日石」の専務に就任した。1884（明治17）年義兄の佐藤勝三郎と敬業社を創立、馬鈴薯の共同出荷などに成功し<sup>7)</sup>、津軽リンゴの普及にも大きな実績を残した<sup>8)</sup>。その佐藤ら同士と藤崎教会を開設し、1887年6月献堂式の日夫婦で受洗した。その後、禁酒禁煙運動の先頭に立つとともに教会の伝道活動を行った<sup>8)</sup>。1888年長谷川は、他の同志7名との発起人代表として「女学校設立趣意書」を公表して有識者たちに募金を呼びかけた。その趣意書は、津軽地方にも女子高等教育の緊要性を説いた熱意あふれる文であった<sup>9)</sup>。1889年弘前女学校が独立校舎建設の際、150円（当時教師の給料4～5円）を寄付。藤崎村にも多額の寄付をし、図書多数の長谷川文庫を作るなどした。さらに、1913年の大凶作の時、貨車50に主食をはじめ雑穀を買い入れ、無償で地元民や関係者に与えた。他に、乃木希典将軍とも親交があり<sup>7)</sup>、上北郡有戸村の雲雀牧場の経営、秋田県湯瀬温泉の開発、総理大臣兼大蔵大臣桂太郎に石油事業に関する建言書を提出することもあった<sup>8)</sup>。

ジョルジアナ・ポーカスは弘前女学校五代目にして初めての専任校長であった。28歳で来日函館の遺愛女学校で生活したのち、1891（明治24）年4月（任期は1895年8月まで）弘前女学校への任命を受けた。同校に王女会を紹介してその奉仕活動に生徒を組織し、指導したのは彼女であろう、と伝えられる。彼女が就任した頃生徒数は少なく、組を作ったの活動まではいかなかったが、それなりの奉仕活動を始めており、そのための資金活動まで行っていた。ポーカス校長のレポートによれば上級生たちは毛糸編物や裁縫の作品を土手町の商店に委託販売してもらうなどで資金を稼ぎ、それを祝祭日に生徒に与

える祝菓の代金にあてたりした。このボーカス校長の地方伝道活動の一つに「子守学校」がある。彼女が弘前に来てまず目にしたのは土手町などの大きな商家の並ぶ街々で学齢に達しながら学校にあげれず子守として雇われている気の毒な女兒たちであった<sup>10)</sup>。

王女会とは旧約聖書詩篇四五・一三「王の娘は殿のうちで栄をきわめ、こがねを織りこんだ衣を着飾っている……」にありとされ、王を神に読み替え、この会員は神に仕える娘であり、常に教神奉仕の精神をもって人に奉仕しようとする女子青年たちの集まりのことであった。王女会は弘前女学校生のキリスト教信仰にたつ課外での奉仕活動として重視すべきものであった<sup>11)</sup>。

工藤玖三(写真3)は1865(慶応元)年に生れ、弘前士族出身で、東奥義塾を中退し、1884(明治17)年青森師範学校を卒業している。その後在京中に本多庸一に見出されて1897年6月約32歳の時に弘前女学校の教頭に着任し、1903年まで勤めた。その間組長及び副組長を選挙で決めるなど校内の内容充実を図り、特に元大工町から坂本町への校舎移転の際など先頭に立って時の校長を補佐した<sup>12)</sup>。また、1899年受洗していた<sup>13)</sup>。弘前市での岡山孤児院慈善音楽幻燈会の際、同院の光延義民準備員は工藤のことを弘前女学校の女生徒を励ましながら、青年男子にも劣らぬ慈善的な活動になったのは、工藤教頭の「果斷と義侠」によると評していた。また、賛助員の定期寄付金を集め、新たな賛助員を募集する岡山孤児院の新地方委員に任命されたことも確認できた<sup>14)</sup>。

E・Jヒューエットは、工藤玖三教頭より少し遅く1897(明治30)年11月弘前女学校の第七代校長に就任し1901年11月まで勤めた。彼女が在任中、生徒は編物や手芸品等を毎年秋の農産品評会に出品して受賞していた。彼女はそのような生徒活動を熱心に指導し、王女会の育成など宗教教育にも重点をおいた。工藤教頭のことを信頼し諸設定を定めさせるなど学内整備にその手腕を発揮させた。米本国の外国伝道局(ミッション)から坂本町新校舎建築資金を得て元大工町から坂本町への新校舎移転という大事業を校長谷川、工藤教頭との協力により成し遂げた<sup>15)</sup>。

### 工藤玖三教頭 <写真3>



(弘前学院外人宣教師館所蔵)

一方、来弘に至るまでの岡山孤児院の動向と音楽幻燈隊の活動経過についても簡単に触れておく。

### (2) 1900年までの岡山孤児院の動向と音楽幻燈隊の活動経過

1900年の岡山孤児院は、それまでの日向孤児院の拡張などにより多額の負債があったが、その解消のため音楽幻燈隊による寄付金募集や毎月10銭定期寄付を同院にする賛助員募集に積極的に取り組み、財政が危機的状況から脱却しつつあった<sup>16)</sup>。実は1897年9月宮崎県高鍋町に到着した時に赤痢が発生し岡山孤児院は存亡の危機に瀕した。そのお詫びとお礼に同院の音楽隊が高鍋町などを巡回したところ寄付が寄せられ、それを機に音楽幻燈隊を組織化し巡回と寄付金募集をするようになった。この時期の同院の年間歳出は約28,068円で、これを賄うための寄附金収入は音楽幻燈隊の活動によるものが最も多く42,6%を占めていた。弘前市での慈善音楽幻燈会では約730円の寄付金が集まり、全歳出の2,6%と重要

な財源の一部であった。

音楽幻燈隊は、前述のとおり赤痢発生のお詫びのため同院の音楽隊が高鍋町などを巡回し、寄付金が寄せられたことを契機に組織化し、その後四国地方や中国地方などの市町を巡回し、1899年は近畿地方、東京市内等、岡山県内、広島県、山口県、福岡県を巡回した。また、同年8月には海外幻燈隊を組織しハワイや米国に渡航していた。

さらに、1900年は、1月から香川県、福岡県、徳島県などの主要市を廻り、6月からは東方運動として表1のように大阪府の堺市から26ヶ所で開催した。7月24日からは石井十次院長も同行して初めて北海道内の主要区町村11か所で同幻燈会を実施した。その後、9月27日に青森市で開催し、10月3日、4日、5日には、本稿の弘前市で開催した。このような背景や前提条件の中で、弘前市での音楽幻燈隊の活動が実施されることになったのである。

なお、ここで石井十次院長および岡山孤児院、音楽幻燈隊について簡単に紹介しておく。

石井十次（院長）は孤児救済を行った明治期の代表的なキリスト教慈善事業家である。1865（慶応元）年4月、宮崎県児湯郡高鍋町に生まれる。来弘時は35歳であった。18歳の時宮崎病院長荻原百平の勧めもあり、岡山県甲種医学校に入学し、医学の道を志す。20歳で岡山基督教会牧師金森通倫より受洗し、貧しい人達に対する救済が必要と考えるようになった。23歳の時巡礼中の母子より貧児1人を預り、1887（明治20）年9月孤児教育会を設立。25歳の時医学と孤児教育の両立は無理と考え、すべての医学書を焼却して岡山孤児院の仕事に専念する。以後、濃尾震災では100人近くの孤児を、東北三県凶作では825人の貧孤児を収容し、一時1200人規模の施設を運営した。49歳で死去したが、日本近代史に残る実践家といえる<sup>17)</sup>。

岡山孤児院は明治期から大正期の慈善事業期や社会事業期を代表する救済施設で、1887（明治20）年9月に石井十次によって孤児教育会として設立される。よって石井が来弘した時は設立後13年になっていた。1891年10月の濃尾震災で100人近くの孤児を収容する一方、一時博愛社との合同を試みた。また、実業教育方針に基づく施設運営を試みるが失敗し、1898年2月からは音楽幻燈（活動写真）隊を編成し、日本全国はおろか、ハワイ、朝鮮、清国にも巡回して寄付金を募集し、民衆への慈善事業の啓蒙にも貢献した。また、これらにより財政が豊かになり、1905年1月「孤児無制限収容」を発表、東北三県凶作地より825人を収容し一時在院児1200人規模の施設となった。同時に、今日の小舎制にあたる家族制度や里親制度より充実した内容の里預児制度を設けた。1909年7月には大阪に愛染橋保育所などを設立してセツルメント的な事業も試みた。一方、院児の農業的独立のために宮崎県の茶臼原へ全面移転し、1926（大正15）年8月に解散するまでそれを継続した<sup>18)</sup>。

岡山孤児院音楽幻燈隊は、既述のとおり岡山孤児院の負債を軽減するための寄付金募集を目的に組織化されたものであった。石井院長は当時日本にも普及していった幻燈を活用しての映像による同院の宣伝を考え、音楽隊と幻燈隊を合わせた。音楽隊の当初の楽器は①クラリネット2個、②コーネット（ホルネット）1個、③アルト1個、④バリトン1個、⑤バス2個、⑥大太鼓1個、⑦小太鼓1個、⑧シンバル1個、⑨トライアングル1個、⑩笛1個、⑪手風琴（アコーディオン）1個、⑫バイオリン2個の12種類15個であった<sup>19)</sup>。

<表1>

音楽幻燈隊東方運動一覧											
	開会地	開会日		開会地	開会日		開会地	開会日		開会地	開会日
1	堺市	6月12、13日	8	名古屋市	7月20、21日	15	弘前市	10月3、4、5日	22	佐留太	9月15日
2	大津市	同16、17、18日	9	静岡市	同27、28日	16	函館区	8月23、24、25日	23	門別	同16日
3	八幡町	同21、22日	10	沼津町	8月1、2日	17	札幌区	同29、30日	24	下下方	同17日

4	彦根町	6月25、26日	11	横須賀町	8月4、5、6、7、8日	18	小樽区	9月2、3日	25	荻伏	9月18日
5	長濱町	7月2、3日	12	宇都宮市	同13、14日	19	岩見沢	同7日	26	浦河	同20、21日
6	大垣町	同10、11日	13	青森市	9月27、28日	20	瀧川	同14日			
7	岐阜市	同6、7日	14	藤崎村	10月1日	21	旭川	同11、12日			

(「音楽幻燈隊東方運動一覧」『岡山孤児院新報』第49号、2頁より)

## 2 ボランティア活動の定義

文科省の「国民生活選好度調査では、ボランティア活動を『仕事、学業とは別に地域や社会のために時間や労力、知識、技能などを提供する活動』<sup>20)</sup>と定義している。同省ではさらに「報酬を目的としないで、自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のために行う活動」<sup>21)</sup>とも述べている。小倉らによると、ボランティアとは自分自身の意志決定によって行われるもの、基本的に無償であり束縛を受けないこと、世のため人のために行うことである、という。また、ボランティアは「慈善」や「奉仕」とも違うとする。「慈善」はする側、してもら側との関係が明確に分かれていて両者には「上下関係」があることが多い。この場合、してもら側が何を望んでいるかより何かをしてあげる「行為」に重要な意味がある。「奉仕」は自発性のあるなしに大きなこだわりはなく、例えば学校行事や企業などで、地域の清掃活動をするときなどに、全員がやりたいと思っていなくても実施される。つまり、ボランティアと慈善と奉仕に共通していることは「無償」ということだけである、と述べている<sup>22)</sup>。

そこで、筆者は、1900年の弘前市での岡山孤児院慈善音楽幻燈会開催時に弘前女学校生が行った行為を、女生徒自身の意志で、無償で世のため他人のために行った行為の1つと仮定し、以下この活動をボランティアと表記することにする。なお、時代背景を考えると当時と現在とは認識の相違があると考えられる。そのことから従ってそれらの検討については今後の課題としたい。

## 3 弘前市での慈善音楽幻燈会開催までの準備とその支援者の内容、弘前女学校生のボランティア活動

弘前市での準備は、岡山孤児院準備員の光延義民が9月16日弘前に着き、知人の飯久保貞次牧師や笹森要蔵の協力を得て準備を進めた。同26日には一番町中勝旅館（「弘前音楽幻燈会通信」<sup>23)</sup>には「中村旅館」と記載されているが、1900年9月30日発行の「東奥日報」<sup>24)</sup>および同年10月3日発行の「北辰日報」には「中勝旅館」とあるため、それに従った<sup>25)</sup>にて発起賛成者会を開催し、慈善音楽幻燈会の開催日時は10月3、4日午後6時から、会場は元寺町の征木座、20銭の寄付者に通常券、1円寄付者に優待券を進呈することとなった。代表委員は当時やその後の弘前市の政財界や医学界を代表する伊東重、岩庭近正、大高歳行、長尾義連、奈良知足、松木彦右衛門、笹森要蔵、櫻庭又蔵、菊池九郎の9名となった。そこで次に、開催準備に関わった飯久保牧師や代表委員がどのような経歴の人達かを簡単に紹介する。

飯久保貞次牧師は、この時34歳ほどで、1900（明治33）年3月弘前美以教会の牧師に着任したばかりであった。彼は、1887年9月に東京英和学校豫備学部（中学）に入学、翌年本多庸一より洗礼を受けた。1896年牧師として久留米美以教会、盛岡教会に赴任後弘前美以教会に着任したのであった<sup>26)</sup>。

笹森要蔵は、この時61歳ほどで、1876（明治9）年県会議員となり、国会開設協議委員として本多庸一、菊池九郎、陸実らと建白書を作成した。温厚寛大公共のために捧げた、人望と信頼が厚い人物であった<sup>27)</sup>。1897年にキリスト教に入信していた<sup>28)</sup>。

伊東重は、この時43歳ほどで、開業医であった。1875（明治8）年6月、集団受洗した東奥義塾生の一人で、1886年東京大学医学部卒業後、家業の洋式病院を開業した。また「養生哲学」をまとめ、その

実践活動として「養生学会」を創設したほか「養生幼稚園」を経営した。その間弘前医師会長、県医師会長を歴任し、1913（大正2）年には弘前市長、1917年には代議士に当選した<sup>29)</sup>。

岩庭近正は、第五十九国立銀行の取締役を1898（明治31）年1月から同年8月まで務めていた<sup>30)</sup>。

大高歳行は、この時61歳ほどで、弘前市議員であった。明治初年から区議員、弘前市議員など多くの公職を歴任し、3度市会議長になるなど、自治制の発展に尽くした<sup>31)</sup>。

長尾義連は、この時53歳ほどで、弘前市長を務めていた。1888（明治21）年青森県議員に当選し、翌年第2代弘前市長となった。その後も市長に推され通算13年半市政を担当した<sup>32)</sup>。

奈良知足は、この時49歳ほどで、開業医であった。数年東京の医学校に学んだのち弘前市で開業した。市参事会員として市政の運営にも尽くした<sup>33)</sup>。

松木彦右衛門は、この時49歳ほどで、多額納税貴族院議員であった。代々酒造業を営み、多くの企業に参画してその取締役を務めていた。多額納税貴族院議員に当選したのは1899（明治32）年10月であった<sup>34)</sup>。

櫻庭又藏は、この時48歳ほどで、弘前市議員であった。1901（明治34）年青森県議員に当選してから連続三選され、弘前市議員としても1889年から23ヵ年在任、1910年には市会議長を務めていた<sup>35)</sup>。

菊池九郎は、この時52歳ほどで、衆議院議員であった。東奥義塾の設立に重要な役割を担い、津軽地方の自由民権運動の指導的地位にあり国会開設に尽力した。その後、青森県議員、初代弘前市長、衆議院議員、山形県知事、農商務省農務局長を務めた。また、1888（明治21）年に東奥日報を創刊し社長となった<sup>36)</sup>。1877年キリスト教に入信していた<sup>37)</sup>。

その頃、弘前女学校では何か慈善事業をして少しでも岡山孤児院の維持費の補助にするため、教師と生徒一同で物品を製作しその売上金の寄付をする計画を立てていた。その時の模様を弘前の地元紙『北辰日報』では次のように報道している。なおこの報道に「私立弘前女学校」とあることから、『弘前学院百年史』の記載と合致し現在の弘前学院聖愛中学高等学校および弘前学院大学の前身であることが確認できた<sup>38)</sup>。

●弘前女学校と岡山孤児院 私立弘前女学校にては今回岡山孤児院主石井十次氏か院児を以て組織せる音楽幻燈會を引率し來ると聞くや何か慈善事業を起し以て少許たりとも同院維持費の補助となさんとの計画をなし先ち同校教師生徒一同にて色々の物品を製作し夫れか賣上高を以て直ちに同院に寄附する筈なりと云ふ（『北辰日報』9月28日、3頁）

そして29日石井院長と音楽隊が来弘した際、女学校生徒等数十名は有志者らとともに迎えた。その夜石井院長はじめ音楽隊員は一番町中勝旅館に投宿した。一行は三十日藤崎村の有志者に招待されて慈善音楽幻燈會を開會した。翌10月1日から音楽隊は弘前市街を行進して開催を宣伝し、2日は曇天でしばしば雨が降る中午後6時から弘前女学校の生徒40余人等が、音楽隊に寄り添って行進した。若い女生徒が雨傘もささずショールをかぶり道端で濡れになって滴を搾りながら衣服のすそをかかげ泥濘を勢いよく進んでいた。

その様子を準備員の光延は「立派で孤児たちを同胞としてその不憫さを思いやり彼らに慈しみ深く心がこもっていなければどうしてこのようなことができようか。私はその気持ちの厚さを感じ入り一人感激のあまり涙を流さざるを得なかった」と岡山孤児院新報に書き残している。原文は次のとおりである。

廿九日石井院長樂隊を率いて來弘す市中の有志者教會女学校の生徒等数十名の出迎あり一番町中村旅館<sup>36)</sup>に投宿す一行は三十日藤崎村の有志者に招待せられ一夕開會す

十月一日より愈々樂隊と共に全市に向って開戦の廣告をなす二日曇天にして降雨屢々至るや午後六時より大舉進軍を企つ女学校の生徒四十餘名外かに二十四餘名の男子之を助け手に手に球燈を携へ三流の大旗を翻へし雪の進軍のそれならて雨を侵して進軍す妙齡の女生徒諸君か雨傘をもささでショールを被ぶり或は露頭にして濡鼠の如く滴を搾りつつ裳をかかげ泥濘を蹴立て進み給ふ有様は壯烈鬼神を

泣かしむと謂つべき歎眞に無告の孤弟妹を同胞として其不憫を思ひやり之れを慈しむことの深く且切なるにあらずんば何んぞ斯の如きを得ん余は其思召の厚きを感じ獨り感涙に堪へざりき（『岡山孤児院新報』11月15日、2頁）

このような経過を経て弘前市で初めての岡山孤児院慈善音楽幻燈会は開催された。

#### 4 慈善音楽幻燈会の開催内容と弘前女学校生のボランティア活動

10月3日から榎木座で慈善音楽幻燈会が開催された。その様子は地元紙の『北辰日報』が詳細に報道をしていたので、1日目の同会の開催内容が理解でき、次に全文を紹介する。

慈善音楽幻燈會景況（三日夜）

如何に弘前市民の義侠なるかを見よ

岡山孤児院主石井十次氏は同院の維持費募集の爲め同院孤兒を以て組織せる音楽幻燈隊を引率し來つて弘前市民に訴ふる處あらんとす義侠仁慈なる本市同胞諸士は奮ふて其舉に賛せざるべからずとは吾人が數日前の紙上に於て記載したる處なり然に義侠仁慈なる本市同胞は此處に委員を撰定し愈々一昨三日及四日の兩夜を以て元寺町榎木座に於て慈善音楽幻燈會を開く事となせり嗚呼慈善音楽幻燈會は如何に盛會なりしかは諸君の知らんと欲する處なるべし茲に當夜に於ける景況を略記せん當日は細雨霏々として降り續き間々斷續せる雲間より日光の閃出する事ありと雖も道路泥濘にして吾れも人も夜に入りて如何あらんかと氣遣へり然れども天も又弘前市民の美舉を賛せしにや六時頃より一天拭ふが如く晴れ渡り月は皎々として中空に懸り無類の晴夜になれるは一同の愁眉を開きしの處なりき會場榎木座の兩側には慈善音楽幻燈會と椽大の廣告をなし門前に數十の紅燈を點せる五時に至るや市民は續々として蝸の如くに來れり定刻に至る數十分前サシモに廣き同劇場も立錐の地なきまでに無慮千五百余名に達せしを以て止むなく門を鎖したるも門前には又人黒山の如かりき此れを以て見るも如何に弘前市民が孤兒に對する同情の厚きかを知るに足るべし

正六時發起人總代として弘前女學校長工藤玖三氏開會の辭を陳べ續て委員伊東重氏の同院に對する沈痛なる演説あり大に市民の感情を惹起しぬ終つて幻燈會に移る右幻燈映畫は岡山孤児院が過去現在の歴史にして院主石井氏が岡山縣上阿知村大師堂に於て乞食兒□□□□（□は筆者が伏字とした。以下同様のものあり）を救ひ母子の談話を聴いて奮然身を投じて孤兒教育に従事するの決心を起したるより現今に至るまでの景況を順を追ひ映出したるものにして中にも薄命兒□□□□□の履歴に及びたる時の如き満場千五百余の市民覺へず同情の感に打たれ落涙せるもの多き様に見受けたり夫れより現在孤兒の教育法より實業部及卒業後の方針等につき院主石井氏が熱心なる口調を以て沈重の説明ありたるを以て満場肅として水を打ちたるか如く一人として喧騒する様の事なかりき幻燈終り孤兒を以て組織せる音楽隊は場に現れ春雨、雪の進軍、ポルカ、九連環、琴の六段等の數曲を順次に吹奏せり奏者は何れも能く熟練し居れるを以て嚙唳として満場に響き渡り不覺市民をして無知不文の孤兒を救濟し斯くも教養せる石井院主が神の如き心情に敬慕せるの狀態ありき

當日は弘前王女會及婦人矯風會の人々は私かに會場整理の任に當り能く市民として便宜を得せしめたるは感すべき事なり嗚呼慈善音楽會第一日の夜は斯くの如き無慮の盛會を以て午後十時三十分を以て閉會せり次に開くべき第二日の景況は如何ならんや義に勇み情に厚き弘前同胞の熱誠のある處必ずや非常の盛況を見るならん

尚當日第八師團司令部將校及同相當官同監督部員一同、第四旅團司令部員一同、衛戍監獄、糧餉部及經營部より特に金二十五圓の寄附ありしと云ふ

（『岡山孤児院新報』第49号の「弘前音楽幻燈會通信」の中の『北辰日報』からの転載記事）

このように、第一日目は、市民が続々と集まり1,500余人に達し、やむなく会場の門を閉じてしまった。しかし、門前にはまだ大勢の人が集まっていた。

主な内容は、始めに發起人總代として弘前女學校教頭の工藤玖三が開会の趣旨を述べ、慈善音楽幻燈



会は開会した。なお、準備員の光延が書き残した『弘前音楽幻燈會通信』には、「弘前女學校長工藤玖三氏」<sup>39)</sup>とあるが、実際には教頭であり、この時の校長は既述のとおりアメリカ人宣教師E・Jヒューエットであった。彼女は、工藤教頭に全幅的な信頼をよせ学内整備など充分にその手腕を発揮させていたためそのような記述になったのかもしれない。もしくは工藤が学校の日常業務の他に毎日曜日に教会日曜学校の校長を務めていたためそのことを指したものと推測することもできる。

その後石井院長が幻燈画と音楽を交えながら岡山孤児院の活動や現況を説明した。その幻燈の内容は、石井院長が岡山県上阿知村大師堂において乞食児□□□□を救い、母子の話を聴いて孤児教育に従事する決心をした時から現在に至るまでの経緯について、順を追って映し出したものであった。さらに、薄命児□□□□の話しに及んだ時には、多くの者が同情し涙を流したのであった。それから、現在実業教育として実施している実業部および卒業後の方針等について、石井院長は熱心かつ落ち着いた口調で説明した。その際は、「満場肅として水を打ちたるか如く」一人として物音を立てる事がなかったものであった。

その後、青年院児の音楽隊が現れ「雪の進軍(軍歌付)」、「春雨」、「ポルカ」、「九連環」、「琴の六段」等の数曲を、会場全体に響き渡るように順次演奏した。ちなみに「雪の進軍(軍歌付)」を選曲したのは、弘前が雪国であるという地域性と当時陸軍第8師団が駐屯している土地柄から、市民の義侠心を惹き起こす意図の一つであったと理解する<sup>40)</sup>。なお、『東奥日報』<sup>41)</sup>では、「春雨ポルカ」と記載され一つの曲と読み取れるが、『岡山孤児院新報』第49号「弘前音楽幻燈會通信」<sup>42)</sup>によると、「春雨」と「ポルカ」は別の曲であったので2曲と判断した。また、会場整理は、(弘前女学校の課外活動である)弘前王女会および婦人矯風会会員が行い、慈善音楽幻燈會の第1日目はこのような盛会のうちに午後10時30分に閉会した。

2日目の同会の内容については、次のように報道された。

#### 岡山孤児院音楽幻燈會の昨夜の景況

前夜よりも盛会にして榎木座木戸口雑沓を究め硝子障子を押し破るなど非常の大入りし番外音楽に引続き君か代雪の進軍越後獅子等數番の音楽に次いで發起人笹森要蔵氏の紹介にて孤児院長石井氏の挨拶あり青年樂隊十二名を引合せ同院に生長せし由来を述べたり夫より幻燈を寫し同院の成立より可憐なる小兒を助けて孤児院設立の觀念を起せしこと十三年間の經歷孤兒の教育家庭体育の労働現況等洩れなく寫眞映畫にて數十枚院長自ら説明の勞を取り參觀人をして慚らず同情を表せしめたり中にも北海道より當年八歳の孤兒にて襟元に岡山孤児院行きと書き記し胸に袋と帳面を下け書き記し途中恙がなく岡山に達せしものあり其の他四國九州中國の者あり目下三百余名の孤兒を養ひ二百余名の卒業生を出せりと云ふ男子は欲する處の事業に就き女子に縁付しもの九名あり八人の兒を生みしは孤児院の孫なりと院長喜んで説明せられたり又維持法に付き委く公衆に訴へたり幻燈終りて蓄音機あり再び音楽に移り琴の六段勇敢の水兵勇ましく吹奏して散會せしは午後十時頃なりし

因に記す當日女学校の生徒等は帽を携へ寄附金を醸集し會堂の婦人方が會場の斡旋に盡力せしはめでたき心様と云ふべし猶孤児院一行は大籠を車に付け古着類の寄附を乞ふため市内を廻り居れり慈善家の寄附こう望ましけれ (『北辰日報』10月7日、3頁)

つまり、2日目は、前夜より約2倍(3,000余人か)の人が入場を求めたため、榎木座の木戸口は雑踏を極めていた。主な内容は、演奏から始まり、石井院長が挨拶をし、同院長は音楽隊員12人の成長の経過を述べた。その後、幻燈を上映し、同院の創立から13年間の経過と院児の教育等聴衆にその考えを説明した。その中には、北海道の当時8歳の孤兒が襟元に岡山孤児院行きと記し、胸に袋と帳面を下げ無事岡山孤児院に着いたことなどの例が含まれていた。さらに、蓄音機も利用し、再び音楽に移り10時頃散会した。その時女学校の生徒等は帽子を携え寄附金を集めていた。

当初音楽幻燈會は3～4日の予定だったが、両日も盛況で入場できなかった者が多数おり急きよ5

日も開催することとした。同日は約800人の入場者が詰めかけたのであった。その結果、弘前市での慈善音楽幻燈会は、3日間の開催となった。

さらに、弘前市での音楽幻燈隊の活動中には、弘前女学校および5つの尋常小学校、2つの高等小学校が一行を招待し悉く職員、生徒全員が寄附金を集めて厚意を表していた。少なくとも4,600人以上の児童や生徒が同院の現況についての話聞き、音楽隊のを知る機会を得ていたことも確認できた。

そして、慈善音楽幻燈会終了後の10月6日には、弘前女学校王女会会員が、石井院長と音楽隊員を停車場まで見送り、同院長に凱旋旗を捧げていた<sup>43)</sup>。

## 5 寄付金募集の内容と慈善音楽幻燈会の啓蒙の効果

### (1) 寄付金募集の内容

岡山孤児院にとっての慈善音楽幻燈会開催の目的は、寄付金募集とそれに伴う新賛助員や新地方委員の獲得であったが、その内容を解明することは、弘前市民の岡山孤児院の慈善事業への寄付行動等の内容を裏付けることになるとともに同院の音楽幻燈隊の活動の弘前市民への啓蒙の効果と理解できるの、その点も明らかにする。

まず、弘前市民から寄せられた寄付金の内容を見ると、表2のとおりその合計額（a. 集金高）は730円23銭7厘で、函館区、横須賀町に次ぐ額であった。このうち、最高額は、表3のとおり弘前女学校生が集めた帽子寄付金の81円7銭6厘で、これは3日間の入場者に会場内で帽子を回して寄付を求めた際の寄付金であった。2番目は弘前市に駐屯する第8師団歩兵第31連隊将校団からの27円12銭で、3番目は同師団司令部将校同等官並高等文官他5関係組織からの25円であった。4番目は飯久保貞次扱の24円40銭、5番目は宮田雄二郎扱の22円20銭、さらに6番目に弘前女学校生徒及工藤玖三扱の22円とあり、この「扱」は、前述した個人が入場券（20銭の通常券と1円の優待券）の販売等の取扱いを行い、寄付金として集めた合計金額を意味していた。この他に、学校関係では、6つの尋常小学校、1つの中学校、1つの高等小学校の各職員、児童、生徒と弘前女学校王女会からも寄付を寄せていた<sup>44)</sup>。

<表2>

音楽幻燈隊の東方運動一覧							
開会地	開会日	開会数	a. 集金高	b. 本売高	a + b	% ((a+b)/ 総収入×100)	新賛助員
堺市	6月12、13日	2回	243円016	25円875	268円891	2.77	83
大津市	同16、17、18日	3回	371.880	17.710	389.590	4.01	85
八幡町	同21、22日	2回	81.430	12.550	93.980	0.97	16
彦根町	同25、26日	2回	211.098	27.025	238.123	2.45	64
長濱町	7月2、3日	2回	277.429	25.800	303.229	3.12	53
大垣町	同10、11日	2回	237.900	20.340	258.240	2.66	32
岐阜市	同6、7日	2回	141.150	20.310	161.460	1.66	38
名古屋市	同20、21日	2回	620.999	54.665	675.664	6.95	68
静岡市	同27、28日	2回	338.374	49.600	387.974	3.99	93
沼津市	8月1、2日	2回	234.530	23.950	258.480	2.66	20
横須賀町	同4、5、6、7、8日	5回	879.790	73.800	953.590	9.81	133
宇都宮市	同13、14日	2回	223.090	37.055	260.145	2.68	25
青森市	9月27、28日	2回	636.819	81.500	718.319	7.39	67
藤崎村	10月1日	1回	63.124	7.500	70.624	0.73	13
弘前市	同3、4、5日	3回	730.237	104.407	834.644	8.58	77

函館区	8月23、24、25日	3回	1207.700	77.751	1285.451	13.22	154
札幌区	同29、30日	2回	617.342	47.820	665.162	6.84	155
小樽区	9月2、3日	2回	665.906	46.025	711.931	7.32	140
岩見澤村	同7日	1回	153.010	16.680	169.690	1.75	23
瀧川村	同14日	1回	193.890	26.670	220.560	2.27	41
旭川町	同11、12日	2回	230.000	51.600	281.600	2.90	84
佐留太村	同15日	1回	54.500	3.700	58.200	0.60	1
門別村	同16日	1回	39.040	2.850	41.890	0.43	12
下下方村	同17日	1回	51.940	0.000	51.940	0.53	0
萩伏村	同18日	1回	161.980	0.000	161.980	1.67	33
浦河村	同20、21日	2回	194.250	6.700	200.950	2.07	78
26ヶ所	51夜	51回	8860.424	861.883	9722.307	100.00	1,588

<注> 「音楽幻燈隊東方運動一覽」『岡山孤児院新報』第49号より作成した。なお、『同新報』第48号の「特別広告」には、新十津川村での開催の記載があった。

<表3>

弘前市民から寄せられた寄付金							
	1円未満	1円以上	2円以上	3円以上	5円以上	10円以上	計
件数	118	143	29	19	16	14	339
合計額 = 7 3 0 円 2 3 銭 7 厘							
最高額は、弘前女学校生が集めた帽子寄付金の81円7銭6厘 (3日間の入場者に会場内で帽子を回して寄付を求めた際の寄付金) 2番目は弘前市に駐屯する第8師団歩兵第31連隊将校団からの27円12銭 3番目は同師団司令部将校同等官並高等文官他5関係組織からの25円 4番目は飯久保貞次扱の24円40銭 5番目は宮田雄二郎扱の22円20銭 6番目は弘前女学校生徒及工藤玖三扱の22円 7番目は渡邊達三扱17円60銭 8番目は西館庸一郎扱16円60銭 9番目は砲兵第8連隊将校団15円 10番目は弘前市立高等小学校職員生徒12円75銭5厘							

<注> 『岡山孤児院新報』第49号附録より作成した。

## (2) 慈善音楽幻燈会の啓蒙の効果

弘前女学校生のボランティア活動とは直接的には結びつかないが、啓蒙の効果として見逃せない主な4点について簡単に触れておく。第1に、岡山孤児院の慈善音楽幻燈会開催の目的は、既述の寄付金募集の他に新賛助員や新地方委員の獲得であった。そこでそれらの獲得状況を見ると、まず賛助員には76人と1団体が加入していた<sup>45)</sup>。この賛助員とは岡山孤児院に対して将来にわたって毎月10銭の定期寄付をする者のことである<sup>46)</sup>。また、地方委員とは賛助員から定期寄付金を集め、新たな賛助員を募集するもので、これには石戸谷軍三郎、奈良知足、工藤玖三、笹森要蔵の4人が任命されていた<sup>47)</sup>。第2に、

幻燈による映像を見せながらの石井院長の説明を聞き「強く感動した」佐々木五三郎という人物がいた。彼は2年後の1902年青森県の大凶作を機に、「貧困孤児の路頭に徘徊して食を求むる者いよいよ多く窮乏の状迫り」東北育児院（現児童養護施設弘前愛成園）を創立したのであった<sup>48)</sup>。第3に、10月8日に弘前市松森町宮川本店内一戸常太郎から石井院長の説明はわかりやすく特に「米搗の歌」に感服しその歌詞を送って欲しいと岡山孤児院宛に手紙が送られていた<sup>49)</sup>。第4に、弘前市の孤児の姉弟二人を準備員の光延が預り10月12日岡山孤児院に入院させていた<sup>50)</sup>。これら4つの具体的事実が確認できたが、それらをもってしても慈善音楽幻燈会がいかに弘前市民の義侠心を呼び覚まし啓蒙の効果があつたかが理解できる。

### おわりに

以上が、1900年10月に弘前市で開催された岡山孤児院慈善音楽幻燈会での弘前女学校生によるボランティア活動の内容である。その活動をまとめると次のようになる。第1に、同校生が物品を製作しその売上金を寄付する計画を立てていたことが確認できた。そして、この売上金は、同院慈善音楽幻燈会への寄付金の中の「弘前女学校生徒及工藤玖三扱」22円の中に含まれていたとみられ、金額的には6番目に高額であったことが理解できた。第2に、音楽隊が弘前市街を行進して開催の宣伝をした際に、女生徒達がずぶ濡れになって孤児に寄り添い衣服の裾をかかげ泥濘を勢いよく進んで、一緒に宣伝活動を実施したことである。第3に、慈善音楽幻燈会の会場整理を弘前女学校の課外活動である王女会の生徒等が行い、さらに第4に、帽子を持って会場内を回り入場者から寄附金を集めたことである。この帽子寄付は81円7銭6厘であったため、寄付金（総額約730円）の中で最高額となった。第5に、弘前女学校に音楽隊を招待し職員生徒全員が寄付し、同校王女会員は石井院長と音楽幻燈隊一行を停車場まで見送り、凱旋旗を捧げ最後まで支援したことが確認できたことである。このような事実から当時の弘前女学校生のボランティア活動は、青森県内での女生徒の組織的なボランティア活動の草分け的存在と判断できたことである。

### 付記

本稿は『東北社会福祉史研究』第36号への投稿論文および「第65回東北社会学会大会」報告資料を基に私立弘前女学校生のボランティア活動の観点から新たな資料を加え再分析したものです。また、本稿は玉井が「はじめに」「1 1900（明治33）年までの弘前女学校の沿革と岡山孤児院及び音楽幻燈隊の活動経過」「2 ボランティア活動の定義」「3 弘前市での慈善音楽幻燈会開催までの準備とその支援者の内容、弘前女学校生のボランティア活動」「4 慈善音楽幻燈会の開催内容と弘前女学校生のボランティア活動」「5 寄付金募集の内容と慈善音楽幻燈会の啓蒙の効果」「おわりに」の部分執筆し、松本が全体の監修を行う研究分担を行ったものです。

※1 松本郁代 弘前学院大学社会福祉学部

※2 玉井 厚 弘前学院大学 社会福祉教育研究所

### <註>

- 1) 以下この項の事実関係は、註を除いて、弘前学院百年史編集委員会編『弘前学院百年史』、学校法人弘前学院、1990年3月、52頁から53頁、738頁から744頁より引用した。
- 2) 九十年史編集委員会編「本多庸一」『弘前学院九十年史』、弘前学院（1976年10月、18頁）と尾崎竹二郎編『青森県人名大辞典』、東奥日報社（1969年4月、596頁）。
- 3) 尾崎竹二郎編『青森県人名大辞典』、東奥日報社（1969年4月、670頁）と弘前学院百年史編集委員会編『弘前学院百年史』、学校法人弘前学院（1990年3月、17頁）。

- 4) 尾崎竹四郎編『青森県人名大辞典』、東奥日報社、1969年4月、461頁。
- 5) 弘前学院百年史編集委員会編『弘前学院百年史』、学校法人弘前学院、1990年3月、64頁。
- 6) 5) の巻頭の「校友会歴代会長」の写真頁および65頁。
- 7) 4) の540頁から541頁。
- 8) 5) の137頁から138頁。
- 9) 5) の24頁から25頁。
- 10) 5) の巻頭の「歴代校長」の写真頁、52頁から53頁、55頁、61頁から63頁。
- 11) 5) の52頁から54頁。
- 12) 5) の122頁から123頁、132頁。
- 13) 日本キリスト教団弘前教会百年史編纂委員会編『弘前教会百年史年表』「弘前教会創立以来100年間の受洗者名簿 1975年9月現在」、1975年10月、付録4頁。
- 14) 光延義民誌「弘前音楽幻燈會通信」『岡山孤児院新報』第49号(1900年11月15日、3頁)と「新地方委員」『岡山孤児院新報』第48号、(1900年10月25日、5頁)。
- 15) 5) の53頁、55頁、116頁。
- 16) 以下この項の概要は、註を除いて、①菊池義昭「明治30年代前半の岡山孤児院の養護実践と塾舎建築の内容」『共栄児童福祉研究』第11号、2004年3月、44頁から45頁、②「音楽幻燈隊東方運動一覽」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日、2頁、③玉井厚・菊池義昭「岡山孤児院音楽幻燈隊の弘前市での慈善音楽幻燈会の活動実態」『東北社会福祉史研究』第36号、2018年3月、61頁から63頁より一部引用し、まとめた。
- 17) 社会福祉辞典編集委員会編『社会福祉辞典』、大月書店、2002年10月、13頁。
- 18) 17) の46頁。
- 19) 横田賢一『岡山孤児院物語－石井十次の足跡』、2012年5月、55頁から56頁。
- 20) 三井情報開発株式会社総合研究所「6－3 既存調査の概要 (1) 平成12年度国民生活選好度調査 2. 『ボランティア活動』の定義と事例」『ボランティア活動を推進する社会的気運醸成に関する調査研究報告書 平成15年度 文部科学省委託調査 奉仕活動・体験活動の推進方策等に関する調査研究』2004年3月、([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/houshi/detail/1369241.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/houshi/detail/1369241.htm), 2018. 6. 7)。
- 21) 20) の「6－3 既存調査の概要 (2) 平成13年度社会生活基本調査 2. 『ボランティア活動』の定義と事例」
- 22) 小倉常明・松藤和生『K T式 新説ボランティア概論～ボランティア・その定義と調整～』、エイデル研究所、2001年11月、6頁から8頁。
- 23) 光延義民誌「弘前音楽幻燈會通信」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日、2頁。
- 24) 「弘前たより (九月廿八日報)」『東奥日報』、1900(明治33)年9月30日。
- 25) 「特別廣告」『北辰日報』、1900(明治33)年10月3日、1頁。
- 26) 大木英二著『弘前教会百年小史』、日本キリスト教団弘前教会、1983年9月、40頁、41頁。
- 27) 青森県議会史編纂委員会編『青森県議会史』「附録・県会議員録」、青森県議会、1962年6月、809頁。
- 28) 日本キリスト教団弘前教会百年史編纂委員会編『弘前教会百年史年表』「弘前教会創立以来100年間の受洗者名簿 1975年9月現在」、1975年10月、付録3頁。
- 29) 4) の53頁、54頁。
- 30) 青森銀行行史編纂室編『青森銀行史』、株式会社青森銀行、1968年9月、834頁から836頁。
- 31) 4) の94頁。
- 32) 4) の447頁。

- 33) 4) の469頁。
- 34) 4) の612頁。
- 35) 4) の269頁。
- 36) 4) の169頁。
- 37) 28) の付録2頁。
- 38) (「弘前女学校と岡山孤児院」『北辰日報』第224号、1900年9月28日、3頁。弘前学院百年史編集委員会編『弘前学院百年史』、学校法人弘前学院、1990年3月、739頁)。
- 39) 光延義民誌「弘前音楽幻燈會通信」『岡山孤児院新報』第49号(1900年11月15日、2頁)と弘前学院百年史編集委員会編『弘前学院百年史』、学校法人弘前学院(1990年3月、55頁、116頁、127頁)。
- 40) 青森県史編さん近現代部会編『青森県史 資料編 近現代2』、青森県、2003年3月、105頁、106頁。
- 41) 「岡山孤児院音楽幻燈會」『東奥日報』、1900年9月27日。
- 42) 光延義民誌「弘前音楽幻燈會通信」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日、2頁。
- 43) 42) の3頁。
- 44) この項の事実関係は、「青森縣弘前市」『岡山孤児院新報』第49号附録、1900年11月15日、1頁、2頁。
- 45) 「新賛助員」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日、5頁、6頁。
- 46) 「賛助員募集」『岡山孤児院新報』第40号附録、1900年2月15日、1頁。
- 47) 46)と「新地方委員」『岡山孤児院新報』第48号、1900年10月25日、5頁。
- 48) 三浦昌武・佐々木寅次郎・宮本喜夫他編『社会福祉法人弘前愛成園史』、社会福祉法人弘前愛成園、1967年11月、7頁。
- 49) 「日誌」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日、3頁、4頁。
- 50) 42) の3頁と「入院児」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日、1頁。

(文献)

- 青森銀行行史編纂室編『青森銀行史』、株式会社青森銀行、1968年9月。  
「青森縣弘前市」『岡山孤児院新報』第49号附録、1900年11月15日。  
「青森縣告示第二百十号」『東奥日報』、1900(明治33)年9月25日。  
「青森慈善会報告」、「弘前慈善会報告」『岡山孤児院新報』第119号、1906年9月15日。  
青森県議会史編纂委員会編『青森県議会史』「附録・県会議員録」、青森県議会、1962年6月。  
青森県史編さん近現代部会編『青森県史 資料編 近現代2』、青森県、2003年3月。  
弘前学院百年史編集委員会編『弘前学院百年史』、学校法人弘前学院、1990年3月。  
「弘前たより(九月二八日報)」『東奥日報』、1900(明治33)年9月30日。  
「弘前たより(二日)」『東奥日報』、1900(明治33)年10月3日。  
「弘前女学校と岡山孤児院」『北辰日報』第224号、1900年9月28日。  
菊池義昭「明治30年代前半の岡山孤児院の養護実践と塾舎建築の内容」『共栄児童福祉研究』第11号、2004年3月。  
九十年史編集委員会編「本多庸一」『弘前学院九十年史』、弘前学院、1976年10月。  
三井情報開発株式会社総合研究所「6-3 既存調査の概要(1)平成12年度国民生活選好度調査 2.『ボランティア活動』の定義と事例」「6-3 既存調査の概要(2)平成13年度社会生活基本調査 2.『ボランティア活動』の定義と事例」『ボランティア活動を推進する社会的気運醸成に関する調査研究報告書 平成15年度 文部科学省委託調査 奉仕活動・体験活動の推進方策等に関する調査研究』2004年3月、  
([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/houshi/detail/1369241.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/houshi/detail/1369241.htm), 2018.6.7)。  
光延義民誌「弘前音楽幻燈會通信」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日。

- 三浦昌武・佐々木寅次郎・宮本喜夫他編『社会福祉法人弘前愛成園史』、1967年11月。  
日本キリスト教団弘前教会百年史編纂委員会編『弘前教会百年史年表』「弘前教会創立以来100年間の受洗者名簿 1975年9月現在」、1975年10月、付録。  
「日誌」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日。  
「入院児」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日。  
「岡山孤児院幻燈會」『東奥日報』、1900年9月27日。  
「岡山孤児院音楽幻燈會の昨夜の景況」『北辰日報』、1900年10月7日。  
小倉常明・松藤和生『K T式新説ボランティア概論～ボランティア・その定義と調整～』、2001年11月。  
「音楽幻燈隊東方運動一覧」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日。  
大木英二著『弘前教会百年小史』、日本キリスト教団弘前教会、1983年9月、1頁と「一別表1－弘前教会百年のあゆみ」。  
尾崎竹四郎編『青森県人名大辞典』、東奥日報社、1969年4月。  
「新賛助員」『岡山孤児院新報』第49号、1900年11月15日。  
「賛助員募集」『岡山孤児院新報』第40号附録、1900年2月15日。  
「新地方委員」『岡山孤児院新報』第48号、1900年10月25日。  
社会福祉辞典編集委員会編『社会福祉辞典』、2002年10月。  
玉井厚・菊池義昭「岡山孤児院音楽幻燈隊の弘前市での慈善音楽幻燈会の活動実態」『東北社会福祉史研究』第36号、2018年3月。  
「特別廣告」『北辰日報』1900年10月3日。  
「特別廣告」『北辰日報』第227号、1900年10月3日と「同」『同』第228号、同年10月4日。  
横田賢一『岡山孤児院物語－石井十次の足跡』、2012年5月。  
「雑報 岡山孤児院〔一〕」「弘前女学校と岡山孤児院」「岡山孤児院と音楽隊」『北辰日報』第224号、1900年9月28日。